

重点課題2

資源循環の促進

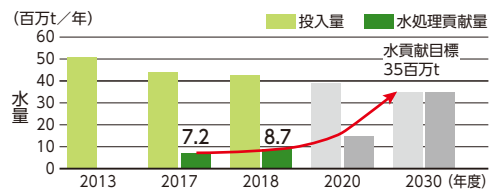
2030年
目標

- (1) 2030年度までに当社グループによる水投入量を30%削減(2013年度比)
- (2) 2030年度までに社会での水処理量35百万トン/年に貢献
- (3) 2030年度までに当社グループによる廃棄物発生量を30%削減(2013年度比)
- (4) 2030年度までに当社グループによる資源投入原単位を30%改善(2013年度比)

富士フィルムグループは、創業当初より、水使用量削減・リサイクル使用、銀等資源の回収再利用、複合機・複写機の循環システム確立など、資源循環に積極的に取り組んでいます。3R(リデュース、リユース、リサイクル)を考慮した製品設計、製造段階でのロス削減、使用済み商品の回収・リユース・リサイクル、廃棄物の有価物化・リサイクル活用など、ライフサイクルでの総合的な取り組みにより、資源の有効利用、廃棄物削減を進めています。

水投入量と水処理貢献量

※2030年度には事業活動での環境負荷(投入量)と同等レベルの社会での貢献を目指す



2018年度
の活動

- 水投入量 15%削減(2013年度比)
- 社会での水処理貢献量 8.7百万トン/年
- 廃棄物発生量 5%増(2013年度比)
- 資源投入原単位 28%改善(2013年度比)
- 富士フィルムグループの水リスクへの取り組みについて、日本地下水学会60周年記念講演会で講演
- 富士フィルム九州の地下水保全活動について、日本地下水学会シンポジウムで講演

▶関連資料・データ: マネジメント編 P54 資源循環

今後の
活動&目標

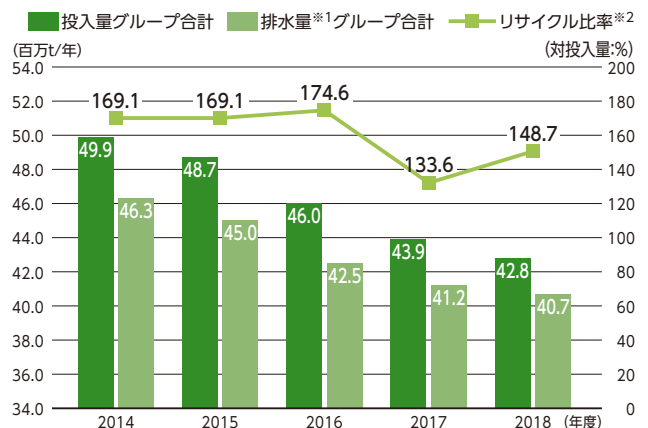
- 各地域・拠点の状況に合わせた着実な削減の取り組みを推進

水リスクへの対応

富士フィルムグループは、創業の事業である映画や写真フィルムの製造において、清浄な水を多く使用していたことから、早くから水投入量の削減、水のリサイクル利用に取り組んできました。近年、国際的な重要課題として水リスクへの関心が高まっていることも鑑み、さらなる水資源の削減・効率使用を進めています。各拠点での継続的な取り組みの結果、2018年度の水投入量は前年比で2.5%減少しました。目標「2030年度までに30%削減(2013年度基準)」に対し、既に15%削減と順調に進んでいます。

水リスクにおいては、問題を抱える地域がさらに拡大する懸念も指摘されているため、2014年より、「水ストレス地域」状況と「水投入量を踏まえた事業影響度」の2指標マトリックスを使った「水リスク評価」の仕組みを構築し、富士フィルムグループの全事業拠点においてリスク評価を継続

水の投入量、リサイクル量及び排水量の推移



※1 事業活動で使用した水、雨水、その他含む ※2 冷却水の使用も含めたリサイクル比率